株式会社KADOKAWA　第60期第3四半期報告書 ▶2013年4月1日～2013年12月31日

vision 37

2014 春号 VOLUME
http://www.kadokawa.co.jp/

**メガコンテンツ・パブリッシャーとして、
さらなる成長を目指す。**

新しい物語をつくろう。

KADOKAWA

社長メッセージ

代表取締役社長
佐藤 辰男
Tatsuo Sato

全世界にKADOKAWAブランドを普及させ、新たな価値創造に努めていきます。

当社は、2013年10月に連結子会社9社を吸収合併し、One Companyとして新たなスタートを切りました。当社を取り巻く環境は、日々刻々と変化しておりますが、デジタル化された多種多様なコンテンツを手軽に楽しむことができる環境が整い、新たなビジネスモデルの可能性が高まってきています。当社グループは、出版事業を中核とし、様々な事業領域をカバーする「メガコンテンツ・パブリッシャー」としてだけでなく、「デジタルコンテンツ・プラットフォーマー」として、事業構造改革を進めており、中期的な成長を実現するために、次の3つに挑戦していきます。

出版社からIP企業体へ

当社は、IPを軸に、出版、映画、アニメ、ゲーム、マーチャンダイズなどの事業ポートフォリオを持つ企業体を目指していきます。

従来は、出版を軸に多彩なメディアミックス展開を行なうことで、事業を成長させてきました。これを多様なメディアから生みだしたIPを軸に独自の事業ポートフォリオを構築することで、出版社からIP企業体へと変貌を遂げていきます。

例えば映像事業においては、シネコン事業の売却を行なう一方、企画・製作、映像パッケージ販売、スタジオ運営を含めて、映画製作事業に注力する体制が整ってまいりました。おかげさまで、映像事業は収益性を改善し、事業ポートフォリオのひとつとして利益貢献を果たしています。さらにこれからは、映像事業からも新たなIPが生まれてくることを期待しています。

また、ゲーム事業においても、『艦隊これくしょん -艦これ-』のように、ネットゲームから生まれたIPが書籍へ展開されるといった新しい流れが生まれています。同様に、マーチャンダイジング、玩具などから生まれたIPが書籍などの他メディアへ展開される新しい流れを、より積極的に生み出していきたいと考えています。

アナログからデジタルへ

物心ついたときからデジタルで情報を収集している若い世代に向けて、当社は「デジタルコンテンツ・プラットフォーマー」、「デジタル・インフォメーションサービス事業者」を目指していきます。すでにネット・デジタルの分野で、着々と新規事業が立ち上がっています。業界に先駆けて取り組んだ電子書籍事業は、市場の拡大とともに順調に成長しており、eコマース事業も引き続き成長しています。また、映像配信事業は、持分法適用関連会社の（株）ドコモ・アニメストアが堅調な成長を示しています。これらプラットフォーム事業は、早くも利益貢献事業となっており、今後生まれる新規事業の良き成功事例となりました。

国内市場からグローバル市場へ

日本の出版市場にとどまることなく世界に展開する「グローバルエンターテインメント企業」を目指していきます。今年中に、韓国、シンガポールなどに拠点を設立し、アジアを中心に新たな地域での出版展開に着手していきます。当社のIPとノウハウを活用し、ライセンスアウト型のビジネスから、自ら現地で事業展開を図り、売上規模の拡大を図っていきます。また、全世界にKADOKAWAブランドを普及させ、新たな価値創造に努めていきます。

以上のような未来像を実現するためには、ネット・デジタルや海外といった成長分野で積極的に新規事業を創出していくことに加え、出版事業領域を拡大し、教育事業にも本格的に取り組んでいくことが重要だと考えています。

その一環として、2013年12月には、ロングセラーコミック『はだしのゲン』などを出版する（株）汐文社を連結子会社化しました。（株）汐文社は、約30年にわたり学校図書館向け書籍の出版・納入を行なってきた実績から、児童向け副読本の企画・編集力と強いブランド力を持つ出版社です。学校・公立図書館向け電子書籍貸出サービスなどを行なう日本電子図書館サービスとの連携強化や、アジア地域での有利な展開も視野に入れています。

また、新規事業として、2014年1月に日本コカ・コーラ（株）と共同運営する新しい形のメディア「週刊ジョージア」を創刊しました。この取り組みは、企業とメディアの新たな関係の可能性を示したカスタムメディアの新境地だと考えています。これまで各事業会社が保有していたIPやノウハウを結集し、合併によるシナジー効果が具現化された先駆的事例となりました。

このように当社は、成長に向けた施策を積極的に実行しつつ、引き続き経営効率化の向上に努めてまいります。株主の皆さまにおかれましても、当社に変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Ranking 第3四半期（10月から12月）の主なヒット作品

シリーズ
1. 「艦隊これくしょん -艦これ-」関連書籍
2. 「坂本ですが？」シリーズ
3. 「となりの関くん」シリーズ

ライトノベル
1. ソードアート・オンライン プログレッシブ 2
2. 魔法科高校の劣等生 12 ダブルセブン編
3. バカとテストと召喚獣 12

一般書
1. インフェルノ
2. モンスターハンター 4 ザ・マスターガイド
3. あたしンち 19

コミックス
1. 坂本ですが？ 2
2. となりの関くん 5
3. 坂本ですが？ 1

文庫
1. ジェノサイド
2. 雀蜂
3. 歪 捜査一課・澤村慶司

映像パッケージ
1. ワールド・ウォーZ
2. 劇場版Steins;Gate 負荷領域のデジャヴ
3. 映画 図書館戦争

出版事業領域の拡大に向け、（株）汐文社を連結子会社化

株式会社 汐文社（ちょうぶんしゃ）

（株）汐文社は子どもの本の出版社です。ロングセラー『はだしのゲン』を中心に、子どもたちに命の大切さや平和を訴える本を中心に刊行。主に学校、公共図書館向けのセット商品を出版しています。独自の販路を持つ児童書業界のなかでも存在感のある会社です。

今後はお互いのコンテンツや販路をマルチユースし、KADOKAWAにおけるキッズ事業部門の躍進に貢献していきます。

日本コカ・コーラ（株）と共同運営する新しい形のメディア「週刊ジョージア」を創刊

GEORGIA
創刊号
今週のラインナップ
グラビア「妄想カノジョ」松井玲奈
「先輩」「物思いの彼女」「babys breath」
新世紀エヴァンゲリオン
伝説の幕開け！第1話を配信中
働キング「鷹職」
危険な高所で躍動する「現場の華」
ほろ苦インタビュー
放送作家・鈴木おさむの壮絶体験
推し麺倶楽部
男のガッツ麺
男のクッキング
男のスイーツ
男のガッツ麺
東京ラーメンストリート
東京ラーメンストリート
東京ラーメンストリート

決算のご報告（第3四半期） 連結財務諸表（要旨）

四半期連結貸借対照表

単位：百万円

		第60期 第3四半期 2013年12月31日	第59期 2013年3月31日
資産の部	流動資産	90,351	83,262
	固定資産	61,130	56,636
	資産合計	151,481	139,898
負債の部	流動負債	38,566	35,270
	固定負債	7,531	17,082
	負債合計	46,097	52,353
純資産の部	株主資本	95,934	84,561
	その他	9,449	2,984
	純資産合計	105,383	87,545
	負債純資産合計	151,481	139,898

四半期連結損益計算書

単位：百万円

	第60期 第3四半期 2013年4月1日～2013年12月31日	第59期 第3四半期 2012年4月1日～2012年12月31日
売上高	111,819	121,170
売上原価	81,473	90,422
売上総利益	30,345	30,747
販売費及び一般管理費	25,783	25,229
営業利益	4,561	5,517
営業外収益	1,064	756
営業外費用	118	119
経常利益	5,508	6,155
特別利益	3,764	116
特別損失	806	1,241
税金等調整前四半期純利益	8,465	5,030
四半期純利益	7,364	3,001

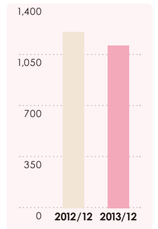
売上高、営業利益について

- 売上高は書籍事業の一部ジャンルにおいて、収益率改善のための作品点数減の影響やシネコン事業の撤退、また、第3四半期よりシネコン運営、映画配給などを行なっている香港現地法人売却による減収要因がありました。
- 営業利益は映像事業の貢献や雑誌事業の回復などで収益改善が着実に進捗していますが、書籍事業における売上高減の影響もあり前年同期比で955百万円の減益となっています。

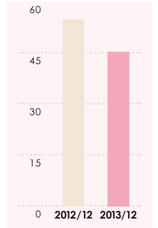
経営利益、四半期純利益について

- ドコモ・アニメストアはじめ持分法適用関連会社からの利益寄与が貢献しました。また、海外子会社の株式売却益、有形固定資産売却益などにより特別利益が3,764百万円となりました。特別損失が806百万円、法人税等が501百万円、少数株主利益が599百万円となった結果、四半期純利益は7,364百万円となりました。

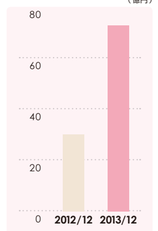
売上高



営業利益



四半期純利益



会社役員

取締役会長	角川 歴彦
代表取締役社長	佐藤 辰男
代表取締役専務	井上 伸一郎
常務取締役	谷口 常雄 松原 眞樹 関谷 幸一 濵村 弘一
取締役	髙野 潔　秋山 伴道 山口 貴　水島 真 塚本 進　安田 猛 太田 修　横沢 隆 芳原 世幸　椎名 保（相談役） 渡辺 彰　川上 量生
社外取締役	船津 康次 森泉 知行 髙須 武男
常勤監査役	若林 陽 髙山 康明
社外監査役	渡邊 顕 神谷 英一

プレゼントのお知らせ

今回は、コミック版第1巻『はだしのゲン 青麦ゲン登場の巻』を抽選で20名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、「株主通信Vision」の感想や経営に関するご質問とともに、お名前、ご住所、お電話番号をご記入のうえ、ご応募ください。

コミック版第1巻
『はだしのゲン 青麦ゲン登場の巻』
20名様

著者 中沢 啓治

●あて先 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 株式会社KADOKAWA IR・広報部「プレゼント」係 ●応募締切り 2014年4月18日（金）（消印有効）

※発表は発送をもって代えさせていただきます。なお、取得した個人情報は当選者の方に商品を発送するためだけに使用し、他の目的では使用いたしません。

製作の現場から

『艦隊これくしょん －艦これ－』

新しいIPをネットに生み出し、ユーザーの皆さまと一緒に育てていくコンセプトから生まれた『艦隊これくしょん-艦これ-』。出版、マーチャンダイジング商品にとどまらず、今後は、アニメ、コンシューマーゲームへの展開も予定しています。KADOKAWAはIPを軸に多彩な展開を行ない、コンテンツの価値を最大限引き出していきます。

『艦隊これくしょん -艦これ-』は、2013年の4月にPCのブラウザゲームとしてサービスを開始しました。

おかげさまで順調に登録会員数を増やし、現在200万人に達する勢いです。皆さまに愛される『艦隊これくしょん -艦これ-』の艦娘たちは、コミック、ライトノベルなどの書籍やTシャツ、フィギュアなどでもそのかわいらしい姿をご覧いただくことができます。

さらには、ファミリーマートさんとオリジナル商品の共同開発を手掛けるなど、100を超えるマーチャンダイジング商品に活躍の場を広げています。

今後も、アニメやコンシューマゲーム展開を軸足に置き、KADOKAWAが一丸となって、『艦隊これくしょん -艦これ-』をより一層愛される存在に育てていきます。さらに角川ゲームスでは、新しいネットゲームの開発にも取り組んでいきます。

今後とも皆さまの変わらぬご愛顧ならびにご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

角川ゲームス
代表取締役社長　安田善巳

月刊「コンプティーク」

「艦隊これくしょん -艦これ- アンソロジーコミック 横須賀鎮守府編」

「艦隊これくしょん -艦これ- 鎮守府生活のすゝめ」

「艦これ白書 -艦隊これくしょん オフィシャルブック-」

「艦隊これくしょん -艦これ- コミックアラカルト 舞鶴鎮守府編」

「艦隊これくしょん -艦これ- 電撃コミックアンソロジー 佐世保鎮守府編」

「艦隊これくしょん -艦これ- 陽炎、抜錨します！」

「艦隊これくしょん -艦これ- 4コマコミック 吹雪、がんばります！」

「艦隊これくしょん -艦これ- 一航戦、出ます！」

「艦隊これくしょん -艦これ- 戦翼の絆」

「艦隊これくしょん -艦これ- 艦これRPG 着任ノ書」

今後の展開

- TVアニメ放送開始予定
- PlayStation®Vita向けゲームソフト『艦これ改（仮）』発売予定

3月22日発売予定
『艦隊これくしょん -艦これ- いつか静かな海で 1』収納ボックス付き特装版「ドック開放」セット
『艦隊これくしょん -艦これ- いつか静かな海で 1』

3月24日 発売予定
『艦これプレイ漫画 艦々日和(1)』

4月16日 発売予定
『艦隊これくしょん -艦これ- 艦これRPG 建造ノ書 壱』

4月26日 発売予定
『艦隊これくしょん -艦これ- コミックアラカルト 舞鶴鎮守府編 四』

TOPICS

「コンプティーク」30周年&リニューアル記念号発売

1983年11月にパソコン情報誌として創刊した「コンプティーク」の30周年＆リニューアル記念号が11月9日に発売されました。

「メディアミックスゲームマガジン」から「デジタルコンテンツマガジン」へ誌面を大刷新！雑誌のロゴデザインおよびサイズが新しくなり、「初音ミク」「艦隊これくしょん-艦これ-」「ロードス島戦記」と「Fate/stay night」のコラボ企画など、ラインナップもさらにパワーアップ。初代編集長の佐藤社長をはじめ、黎明期を支えた面々による創刊30周年企画「コンプ魂」など充実した企画も満載です。新しく生まれ変わった「コンプティーク」を今後もぜひご支援ください。

『インフェルノ』、出版した全ての国で第1位を記録！さらに荒俣宏氏、越前敏弥氏によるトークイベントも盛況！

ダン・ブラウン最新作『インフェルノ』が11月28日に日本国内で発売されるやいなや、その上下巻が紀伊國屋書店週間ランキング第1位・第2位を獲得しました。本書はすでに、全米・上半期ベストセラー・ランキング第1位、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアなど出版した全ての国で第1位を記録し、今年度最大の話題作となっています。

また、発売を記念して、11月30日、Amazon.co.jpがKindle Fire HDXの発売に合わせ、期間限定で表参道にオープンした体験型スペース「Kindle エンタメステーション」にて、日本語版発売を記念したトークショーが行なわれました。ゲストは、作家の荒俣宏氏と翻訳者の越前敏弥氏。ともにダン・ブラウンの世界には誰よりも深く精通しており、非常に興味深いトークショーとなりました。

ファミ通文庫『バカとテストと召喚獣』、ついに本編完結！

累計700万部を突破し、TVアニメ化をはじめコミカライズやゲーム化もされた「ファミ通文庫」の大人気ライトノベル『バカとテストと召喚獣』（著：井上堅二、イラスト：葉賀ユイ）が、11月30日発売の最新巻でついに本編が完結となりました。本編最終エピソードとなる12巻では、二年生vs三年生の試験召喚戦争がさらにヒートアップ！ 主人公明久と三年生代表の高城との熱いバトルが繰り広げられます。そして、11巻の雄二に続き明久の恋路もついに決着が!?

青春エクスプロージョンラブコメ『バカテス』のラストを飾るに相応しい結末にもぜひご注目ください。また、本編は最終巻となりますが、短編集となる「.5」も予定されてますので、まだちょっと『バカテス』は続きます！

KADOKAWA初の時代小説専門レーベル、「富士見新時代小説文庫」創刊！

新生KADOKAWAが贈る初の時代小説文庫レーベル「富士見新時代小説文庫」が誕生しました。昨今、キャラクター小説化の傾向がより強まっている時代小説ジャンルに、ライトノベルで培ったノウハウを活かして挑戦するレーベルです。想定読者は従来の時代小説ファンだけにとどまらず、若めの潜在的な読者の掘り起こしも狙っており、従来の時代小説とはひと味ちがった切り口での作品刊行も目指していきます。

「さんまのスーパーからくりＴＶ」で大反響！ ロバート馬場、初めての料理本！

テレビ番組で料理の腕前が大注目されている、お笑い芸人ロバート馬場さん初のレシピ本「ロバート馬場ちゃんの毎日毎日おいしい本」が12月16日に発売されました。調味料までも自ら手作りする凝りようで、その味には料理研究家も驚くほど。一度作れば毎日食べられる保存食や調味料と、それを使った「まぜるだけ」「かけるだけ」「炒めるだけ」などのカンタンちょい足しアレンジのおつまみ、そしておもてなしにも使える献立など全58品のレシピを紹介。手作りすることによって、塩分の調整や、甘味・辛味、野菜の旨味などがしっかり味わえる、馬場さんの手作り料理の優しさが詰まったレシピ本です。

子どもの感動や発見を五七五に！ 月刊「俳句」がジュニア俳句を大募集！

月刊「俳句」では2013年6月から9月にかけて、"夏休みスペシャル企画"としてジュニア俳句を募集したところ、全国から5,000通を超える作品が集まりました。第2弾"冬休み編"では「冬・お正月」をテーマに募集。8,000通を超える俳句が寄せられ、子どもたちの俳句指導に熟心な若手俳人2名が大賞・準賞ほか各賞を選句します。入賞作品は「俳句」2014年4月号誌上にて発表予定。"俳句"は、子どもの「日本語力」や「感動する心」「ひらめき」を磨くのにも最適です。

『ソードアート・オンライン』文庫シリーズ全世界1,100万部突破！

電撃文庫の大人気作品『ソードアート・オンライン』シリーズの全世界累計発行部数*が1,100万部を突破しました。『ソードアート・オンライン』シリーズは「第15回電撃大賞」小説部門で＜大賞＞を受賞した川原 礫氏の小説作品で、謎の次世代オンラインゲーム「ソードアート・オンライン」を舞台に繰り広げられる、主人公・キリトの活躍を描いた物語です。2009年4月より刊行を開始し、2013年12月10日発売「ソードアート・オンライン プログレッシブ2」でシリーズ15冊目となりました。メディアミックスも盛んで、現在TVアニメの新プロジェクト「ソードアート・オンラインⅡ」が始動しているほか、コミック連載、ゲーム化、商品化、イベント開催など多彩な展開で数多くのファンを獲得。「オリコン年間"本"ランキング」の文庫ライトノベルシリーズ別で、2012年と2013年の2年連続1位にも輝いています。世界に広がり続ける『ソードアート・オンライン』シリーズの今後にご注目ください。

※日本をはじめ、中国、台湾、韓国、タイでの累計発行部数です。今後も、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストリア、カナダ、スイスなど世界各国での出版を予定しています。

電撃文庫『ソードアート・オンライン』シリーズ
著／川原 礫　イラスト／abec

名作探訪 第11回 「ドロップ」品川ヒロシ初の長編映画監督作品

人気お笑いコンビ"品川庄司"の品川ヒロシさんが、ドロップアウトした青春時代の体験をベースに綴った青春小説『ドロップ』。自ら監督・脚本を手掛け、長編映画初作品となった映画『ドロップ』は、2009年3月20日、全国144スクリーンで公開され、興行収入19.5億円のスマッシュヒットとなりました。

©2009「ドロップ」製作委員会

不良の世界に飛び込んだ少年の成長を笑いとアクション満載で描いた同作品。主人公ヒロシ役は、映画・ドラマ・舞台で幅広く活躍していた実力派若手俳優の成宮寛貴さん。おしゃべりで調子のいいヒロシを軽妙に演じて新境地を見せました。また、カリスマ不良の達也役には、テレビドラマ「絶対彼氏～完全無欠の恋人ロボット～」、「花ざかりの君たちへ～イケメン☆パラダイス～」で大ブレイク中だった水嶋ヒロさん。脇を上地雄輔さん、中越典子さん、本仮屋ユイカさんらが固め、加えて吉本若手お笑い芸人の方々が続々と登場したことも大きな話題となりました。

品川監督の仕事をサポートした当社社員は「"芸人さんの初監督作"という不安を一蹴する作品の魅力、監督の情熱に、配給スタッフ、そしてなにより俳優さんたちも突き動かされ公開を迎えました。作品が持つ勢いが宣伝、興行にそのまま伝わり良い成績に繋がったように思います。」と当時を回想しています。

2011年3月19日には、品川ヒロシ監督第2弾『漫才ギャング』が公開。前作でも話題となったキレのあるアクションシーンに加え、本業であるお笑いの世界での成功を夢見る芸人の想いをテーマとした青春映画となりました。

そして、2014年4月1日、最新作となる『サンブンノイチ』が公開されます。新世代のストーリーテラー木下半太さんの原作（角川文庫）を映画化。主演のシュウ役に藤原竜也さん、コジ役に元KAT-TUNの田中聖さん、健さん役にブラックマヨネーズ小杉竜一さん、ヒロインまりあ役に中島美嘉さんが出演。さらには、窪塚洋介さん、池畑慎之介☆さんと、かつてない豪華キャストとスタッフによる究極のアンサンブルが実現しました。

予測不能のジェットコースタームービーにぜひご期待ください。

©2014「サンブンノイチ」製作委員会